

ご挨拶

来年は、神奈川県建築物震後対策推進協議会が発足されてから、20年を迎えるが、これまで、継続して事業が実施されてまいりましたのも、県内自治体の皆様が一致協力して災害に立ち向かおうとする姿勢の表れと思い、敬意を表します。

震後対策推進協議会の設立時は、東海沖地震等を想定しての事業でございましたが、幸いにして、東海沖地震等、神奈川県に被害をもたらす地震には遭遇せずに現在に至っております。

しかし、この間に、阪神淡路大震災が起こり、神奈川県の皆様方が被災地の皆様方のお役に立つようご活躍されたことは誠に意義深いものございます。

つい最近のことと思われますが、阪神淡路大震災からも既に15年が経過いたしました。

その後も、地震国である我が国でございますので、各地におきまして、中越地震等大きな被害をもたらす地震にたびたび遭遇しております。

地震規模も被害の規模も多様でございますし、また、被災された方々のご要望も様々でございます。

震後対策推進協議会としての事業展開も、発足20年の節目を迎え新たな局面を迎えるものと推察しております。

私どもの建築安全協会も講習会開催等の業務を受託させていただきましたが、民間の建築士の方々のご協力により、1万人を超える方々が応急危険度判定士として登録を頂いておりますことは、業務受託を頂いております協会としても大変喜ばしいことと思っております。

協議会発足20年、阪神淡路大震災から15年の節目でもございますので、協議会の皆様また応急危険度判定士の方々に、何かお役に立てることはないかと思い、検討させていただき、このたび、講習会の資料のうち、映像等の資料をリメイクしたDVDを作成させていただきました。

今後とも講習会等でご活用いただければと思い、本日、成果物を御引渡しいたします。

今後ともよろしくお願い申し上げて、ごあいさつとさせていただきます。

平成22年12月2日

神奈川県建築安全協会 会長 花 方 威 之